

令和3年度定時総会資料

令和3年6月7日

東三河懇話会

令和3年6月7日（月）
於：ホテルアークリッシュ豊橋 5階 ザ・グレイス

東三河懇話会 令和3年度定時総会次第

15:00～15:45 定時総会

- 議案1． 令和2年度事業報告並びに収支決算報告の件
- 議案2． 令和3年度事業計画（案）並びに収支予算（案）の件
- 議案3． 細則一部改定の件
- 議案4． 役員変更の件

15:50～17:00 記念講演

- 講師： 前愛知県副知事 森岡仙太氏
- 演題： 「今、何をすべきか」

※定時総会、記念講演会は通常開催に加えて、WEB配信を実施
※交流懇親パーティーは、コロナ禍により開催中止

議 案 1. 令和 2 年度事業報告並びに収支決算報告の件

令和 2 年度事業報告

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 3 1 日

令和 2 年度は、会長をはじめとする役員の刷新を図り、新しい体制でスタートしました。しかしながら、2020 年 1 月に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大により、移動制限や人と人との接触を削減することが求められるようになり、弊会の主要事業である産学官の交流・連携事業に、大きな影響を受けた 1 年となりました。

産学官民交流事業における「東三河産学官交流サロン」と「東三河午さん交流会」は、緊急事態宣言発令による交流機会の喪失や自粛ムードの広がりにより、4 月から 7 月まで中止を余儀なくされました。7 月頃からの感染者数の減少に鑑み、8 月以降、参加定員の削減、マスク着用、アルコール消毒、検温などの各種感染防止対策を講じるとともに、「東三河産学官交流サロン」ではオンラインを併用するなどの対応を図り、会員の皆さまの交流機会の創出に努めました。

広域連携事業では、9 月以降、設楽ダム関連事業を含めた東三河地域のインフラ整備事業に関する説明会、三河港の各種課題や将来のあるべき姿について専門家と会員の皆さまが意見交換を行う研究交流会を開催しました。また、東三河生態系ネットワーク協議会の事務局として、地域の生態系維持・保全に関連した組織・機関等のネットワーク形成を促すフォーラムを 11 月に開催し、東三河地域の生物多様性の保全に対する意識啓発と取り組みの活性化を図りました。

一方、今年 1 月には、新春恒例の東三河 8 市町村長を囲む新春懇談会を開催し、『ポストコロナに向けた新・地域づくり』をテーマに、パネルディスカッションを行いました。

会員サービス事業では、12 月 1 日付でウェブサイトを更新し、会員の皆さまにより見やすく、より分かりやすく情報をお伝えすることを念頭に、サイトの構成やコンテンツの見直しを行いました。

なお、今年度より、産学官民交流事業や地域づくりに関心のある会員企業・団体の若手・女性社員（職員）等を対象に、新しいネットワーク形成や講演会等による学びを通じた自己成長の実現に繋げるための取組として「東三河グローアップミーティング」を、また産学官の若手メンバーを選定し、当地域で顕在化している課題等をテーマとして取り上げ、地域への提言に繋げる取組として「産学官の新しいネットワークづくりのためのワーキング」を立ち上げ、活動をスタートさせました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で先は見通せない状況ではありますが、新年度も会員の皆さまのニーズを的確に受け止め、感染防止対策を十分講じた上で、ウィズコロナを前提に積極的に産学官民交流事業を推進し、地域の発展に繋げてまいる所存です。会員の皆さまにおかれましては、引き続き積極的なご参加をお願い申し上げます。

(1) 産学官民交流事業

①東三河産学官交流サロン

コロナ禍により4回(R2.4月～7月)の開催が中止となり8回の開催となったが、産学官民の交流連携、情報交換の場を提供するため、東三河の産学官民の講師を招聘し、会員にとって「知」の場となるタイムリーな情報を発信した。また、9月からWEB配信を導入する一方、講演後の質疑応答を取り入れた運営スタイルに変更した。

(第430回～437回 詳細後記)

②東三河午さん交流会

コロナ禍により3回(R2.4月、6月、7月)の開催が中止となり7回の開催となったが、地域に密着したさまざまな話題をピックアップして、東三河において社会活動や文化芸術活動を実践し、地域づくりに貢献されている方々を紹介し、会員への情報発信を行った。

(第204回～210回 詳細後記)

③視察会

コロナ禍により、開催しなかった。

(2) 広域連携事業

①東三河8市町村長を囲む新春懇談会

新春恒例の事業として、東三河地域における共通の課題・テーマに関する東三河8市町村長参加のパネルディスカッションを実施し「ポストコロナに向けた新・地域づくり」をメインテーマとして、東三河のこれからの姿の展望について活発な議論が行われた。なお、地元ケーブルテレビ局による生中継、ならびにYouTubeを活用したWEB配信を実施した。

(詳細は、会報誌MIKAWA-NAVI特別号に掲載)

②国際自動車コンプレックス研究会の新展開

三河港振興会・自動車港湾委員会と連携をとりながら研究活動を実施し、自動車産業・港湾整備に関する企業活動・政策の最新動向について研究交流会を3回、講演会を1回開催した。

なお、これまでの国際自動車コンプレックス研究会で掲げてきたプロジェクトを継承しつつ、三河港を中心に未来に向けた地域づくりの戦略を検討することを目的として、会の名称を「三河港未来戦略会議」に変更した。

(詳細後記)

③東三河生態系ネットワーク協議会

東三河生態系ネットワーク協議会の事務局として、SDGs(持続可能な開発目標)の目標である「14.海の豊かさを守ろう」「15.陸の豊かさを守ろう」を中心に活動を展開した。

今年度は、月例役員会のほか、11月に蒲郡市で「東三河生態系ネットワークフォーラム2020」を開催し、協議会加入団体、ならびに地元高校生等による研究活動報告などから、生態系保全の重要性について理解を深めていただいた。

④地域インフラ事業の説明会

令和2年8月に「三河港関連事業計画等説明会」を、また9月には「東三河地区幹線道路整備計画に関する説明会」を三河港振興会と共催した。

(詳細後記)

⑤各種団体との連携・協力

中部経済同友会、浜松経済同友会、(一社)奥三河ビジョンフォーラム、三河港振興会等との連携・協力により、会員交流や産学官民連携に向けた講演会などの取り組みを実施した。

(3) 会員サービス事業

①広報活動の一層の推進

本会ホームページのリニューアルを実施し、12月1日より公開した。また、会報誌「MIKAWA—NAV I」(季刊)の発行をホームページへの掲載に移行した。
(URL <https://www.konwakai.jp/>)

②会員意見の収集と運営への活用

7月に、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う企業活動への影響に関するアンケートを実施し、会報誌に集計結果を掲載した。また、各種催事への参加者にヒアリング、アンケート等を実施して、当会の活動等に関するニーズを把握し、事業運営に活用することに注力した。

③会員サービスの質的向上

(公社)東三河地域研究センターとの情報共有と連携強化を図り、同センターが保有するシンクタンク機能を活用し、会員にとって有益な産学官民交流および広域連携事業の充実を進めた。

④「東三河地域問題セミナー」の支援

(公社)東三河地域研究センター主催で2回開催した。また、地元大学生による東三河地域関連研究発表会をWEB配信にて開催した。
(詳細後記)

(4) 新しいネットワークづくりへの取り組み

会員相互の新しいネットワーク形成や地域づくりを考えることからの学びと自己成長を目的とした「東三河グローアップミーティング」を立ち上げ、1月に第1回キックオフミーティングを開催した。また、産学官の若手メンバーが集い、地域で顕在化している課題等をテーマに討論する「産学官による新しいネットワークづくりのためのワーキング」を12月に立ち上げ、地域への提言に繋げるための活発な議論を4回開催した。

(5) 会員増強

○新入会

[法人会員] 5口

- ・ 壽鑛業(株)
- ・ (株)新東通信
- ・ 中電不動産(株)岡崎支社
- ・ 豊橋建設工業(株)
- ・ 丸利建設(株)

○増口

[特別会員] 2口

- ・ 豊川市
- ・ 新城市

(敬称略)

運営の部

1. 定時総会

令和2年6月25日（木）15:00～15:30

於：ホテルアークリッシュ豊橋 5階 ザ・グレイス

・議事

議案1. 令和元年度事業報告並びに収支決算報告の件

議案2. 令和2年度事業計画（案）並びに収支予算（案）の件

議案3. 役員改選の件

※WEB配信も実施

※記念講演会、交流懇親パーティーは開催中止

2. 理事会

令和2年5月26日（火）に開催予定だったが、コロナ禍により開催を中止した。

（書面による決議）

3. 会員数及び口数の状況

（1）入 会 法人会員 5社 （ 5口）

退 会 法人会員 3社 （ 3口）

 個人会員 1名 （ 1口）

増 口 特別会員 （ 2口）

（2）令和3年3月31日現在会員数

法人会員 154社 （185口）※分社化により2社増

個人会員 2名 （ 2口）

特別会員 12団体 （ 30口）

推薦会員 2名 ー

資料（事業の詳細）

1. 国際自動車コンプレックス研究会 活動状況

- (1) 第 57 回研究交流会 (R2. 8. 18 於：豊橋市民センター (カリオンビル) 6 階多目的ホール)
講 師：政策研究大学院大学 客員教授 井上聰史氏
演 題：「港湾の経営とロジスティクス戦略」
出席者：33 名
- (2) 第 58 回研究交流会 (R2. 10. 27 於：豊橋商工会議所 4 階 401 会議室)
講 師：(株)フォーイン 取締役企画調査部 田中八智代氏
取締役日本調査部長 福田将宏氏
企画調査部シニア・リサーチャー 李 強福氏
演 題：「新型コロナの自動車産業への影響と回復シナリオ」
出席者：36 名
- (3) 第 59 回研究交流会 (R2. 12. 3 於：ホテルアークリッシュ豊橋 4 階ザ・テラスルーム)
講師 1：国土交通省 中部地方整備局 港湾空港部 計画企画官 寺園正彦氏
演 題：「伊勢湾の港湾ビジョンについて」
講師 2：新潟大学大学院 現代社会文化研究科 教授 稲吉 晃氏
演 題：「港湾の歴史と三河港の将来像」
出席者：58 名
- (4) 第 22 期報告総会・記念講演会 (R3. 3. 25 於：豊橋市民センター (カリオンビル) 6 階多目的ホール)
・記念講演会
講師 1：国土交通省 中部運輸局 交通政策部 環境・物流課長 藪田丈夫氏
演 題：「物流政策を巡る動向について」
講師 2：日本貨物鉄道(株)東海支社 静岡支店長 二階堂 剛氏
演 題：「JR 貨物の会社概要と今後の取組」
出席者：45 名

2. 講演会、懇談会等

- (1) 特別セミナー (R2. 8. 3 於：豊橋市民文化会館 大ホール)
講 師：(株)新東通信 ビジネス戦略プロデューサー／SDGs ビジネスコンサルタント
(一社) 中部 SDGs 推進センター シニアプロデューサー 細戸 健氏
演 題：「SDGs の基本理解と企業活動への実装」
出席者：42 名
- (2) 令和 2 年度 三河港関連事業計画等説明会 [三河港振興会と共催]
(R2. 8. 28 13:30～15:00 於：ライフポートとよはし コンサートホール)
講 師：国土交通省 中部地方整備局 三河港湾事務所 所長 山口隼人氏
愛知県 三河港務所 所長 白村 暁氏

愛知県 三河港工事事務所 所長
参加者：99 名

渡邊浩文氏

(3) 令和2年度 東三河地区幹線道路整備計画に関する説明会〔三河港振興会と共催〕

(R2.9.10 13:30～15:30 於：ライフポートとよはし コンサートホール)

講 師：国土交通省 中部地方整備局 名四国道事務所 所長 永田耕之氏
国土交通省 中部地方整備局 浜松河川国道事務所 所長 吉田敏章氏
国土交通省 中部地方整備局 設楽ダム工事事務所 所長 真鍋将一氏
愛知県 東三河建設事務所 所長 中尾恭啓氏
愛知県 新城設楽建設事務所 所長 城戸 毅氏

参加者：154 名

(4) (公社)東三河地域研究センター 総会記念講演会

・通常総会 (R2.11.27 15:00～ 於：ホテルアークリッシュ豊橋 5階ザ・グレイス)

講 師：(株)三菱総合研究所 未来共創本部主席研究員
チーフプロデューサー 松田智生氏

演 題：「アフターコロナの地方創生 ～逆参勤交代が日本を変える～」

参加者：44 名 (オンライン 14 名)

(5) 三遠地区地域懇談会〔中部経済同友会、浜松経済同友会と共催〕

(R3.1.25 16:00～18:00 於：ホテルアークリッシュ豊橋 5階ザ・グレイス)

講 師：豊橋技術科学大学前学長／東京大学名誉教授 大西 隆氏

演 題：「リニア時代に向けて三遠南信地域が取るべき戦略とは」

参加者：53 名

※懇親会は、コロナ禍により中止

3. 東三河産学官交流サロン (公社)東三河地域研究センターと共催

(年 8 回、18:00～20:30 於：ホテルアークリッシュ豊橋 5階ザ・グレイス)

★第 426 回～第 429 回 ※コロナ禍により中止

第 430 回 R2.8.19 参加者 74 名

- ・愛知大学 文学部 教授 山田邦明氏
「戦国時代の豊橋」
- ・蒲郡市長 鈴木寿明氏
「未来(あす)の蒲郡に向けて」

第 431 回 R2.9.16 参加者 68 名 (オンライン 5 名)

- ・豊橋技術科学大学 学長 寺嶋一彦氏
「地域と連携した技科大のこれからの産学官金共同研究・教育と国際展開」

第 432 回 R2.10.21 参加者 67 名 (オンライン 1 名)

- ・豊橋創造大学 保健医療学部理学療法学科 教授 石田和人氏

- 「理学療法の視点からみたこころの健康管理について」
- ・(株)アグリトリオ 代表取締役社長 石川浩之氏
- 「農業の社会課題を地方版働き方改革で解決！」

第 433 回 R2. 11. 18 参加者 65 名（オンライン 6 名）

- ・愛知工科大学 学長 安田孝志氏
- 「三河中央と三河湾の新生『愛知工科大学』」
- ・国土交通省 中部地方整備局 三河港湾事務所 所長 山口隼人氏
- 「三河港を核とした東三河の経済発展」

第 434 回 R2. 12. 23 参加者 88 名（オンライン 15 名）

- ・豊橋技術科学大学 前学長／東京大学 名誉教授 大西 隆氏
- 「コロナの一年と、これから」

第 435 回 R3. 1. 20 参加者 46 名（オンライン 13 名）※会食中止

- ・豊橋技術科学大学 理事・副学長 山本進一氏
- 「多様な木と森ー生物多様性の科学ー」
- ・NPO 法人東三河フードバンク 副理事長 片桐逸司氏
- 「もったいないをありがとうにー東三河フードバンクー」

第 436 回 R3. 2. 17 参加者 56 名（オンライン 21 名）※会食中止

- ・愛知大学 地域政策学部 教授 鈴木 誠氏
- 「地区防災論と大学の役割ー南海トラフ地震を想定してー」
- ・(一社) 奥三河ビジョンフォーラム 専務理事／(株)田村組 代表取締役社長 田村太一氏
- 「いま、奥三河がおもしろいー受け継がれていく中山間地ー」

第 437 回 R3. 3. 23 参加者 53 名（オンライン 14 名）

- ・豊橋技術科学大学 理事・副学長 角田範義氏
- 「和歌山工業高等専門学校校長を経験して」
- ・(株)Waphyto 代表／植物療法士 森田敦子氏
- 「東三河とともにーWaphyto のご紹介と地方創生ー」

4. 東三河午さん交流会 (公社)東三河地域研究センターと共催

(年 7 回、5、1 月を除く毎月第 1 金曜日を原則 11:30～13:00

於：ホテルアークリッシュ豊橋 4 階ザ・テラスルーム)

★第 201 回～第 203 回 ※コロナ禍により中止

第 204 回 R2. 8. 7 参加者 44 名 ※5 階ザ・グレイスに会場変更

- ・愛知大学 名誉教授 藤田佳久氏
- 「豊川の『霞堤』ー今も生きる伝統的治水システムー」

第 205 回 R2. 9. 4 参加者 37 名

- ・NPO 法人 TTRunners 理事長 仲井雅弘氏
「才能を育てる」

第 206 回 R2.10.2 参加者 34 名

- ・豊橋総合動植物公園 動植物園長／獣医師・農学博士 高見一利氏
「動物園は必要ですか？」

第 207 回 R2.11.6 参加者 45 名

- ・（一社）奥三河観光協議会 鈴木真由子氏
「奥三河 つなぐ観光を目指して」

第 208 回 R2.12.4 参加者 32 名

- ・蒲郡市生命の海科学館 館長 山中敦子氏
「科学の目で再発見！東三河のたからもの」

第 209 回 R3.2.5 参加者 38 名

- ・（株）海みらい研究所 代表取締役 丸崎敏夫氏
「うな井の未来を明るく、夢の実現へ」

第 210 回 R3.3.5 参加者 33 名

- ・豊橋市文化財センター 学芸員 中川 永氏
「崩れゆく吉田城 今、何が必要か？」

5. 令和 3 年 東三河 8 市町村長を囲む新春懇談会

（R3.1.6 於：ホテルアークリッシュ豊橋 5 階ザ・グレイス）

テーマ：「ポストコロナに向けた新・地域づくり」

内 容： 東三河 8 市町村長によるパネルディスカッション

【パネリスト】

豊橋市長	浅井由崇氏
豊川市長	竹本幸夫氏
蒲郡市長	鈴木寿明氏
新城市長	穂積亮次氏
田原市長	山下政良氏
設楽町長	横山光明氏
東栄町長	村上孝治氏
豊根村長	伊藤 実氏

【コーディネーター】

豊橋技術科学大学 前学長／東京大学 名誉教授 大西 隆氏

参加者：164 名

6. 東三河地域問題セミナー （主催：（公社）東三河地域研究センター）

（1）第 2 回公開講座（R2.8.27 於：豊橋市民センター（カリオンビル）6 階 多目的ホール）

講 師：名古屋大学大学院 生命農学研究科 准教授 田中隆文氏

講 演：「日々の暮らしと土砂災害への備えー実効性のある防災に向けてー」

参加者：31 名

(2) 第3回公開講座(R2.9.28 於：豊橋商工会議所 4階 406 会議室)

講 師：公立大学法人福知山公立大学 地域経営学部 准教授 杉岡秀紀氏

演 題：「関係人口と地域づくり～もう一つの「人口」論からもう一つの「人材」論へ～」

参加者：31 名

7. 東三河地域関連研究発表会 (主催：(公社)東三河地域研究センター)

(1) 第27回地域関連研究発表会 (R3.3.16 オンライン開催)

参加者：オンライン 36 名

8. 東三河グローアップミーティング

(1) 第1回(R3.1.18 於：ホテルアークリッシュ豊橋 5階ザ・グレイス)

講 師：(株)サーラコーポレーション代表取締役社長兼グループ代表・CEO 神野吾郎氏

演 題：「地域活性化を目指す経営」

参加者：32 名 (オンライン 16 名)

9. 産学官による新しいネットワークづくりのためのワーキング

【メンバー】

イノチオホールディングス(株) 経営企画部経営企画課 山北悠杏氏

豊橋信用金庫 総合企画部 坂田祐人氏

武蔵精密工業(株) イノベーションラボクルー 鈴木隆文氏

愛知県東三河総局 企画調整部企画調整課 藏地弘典氏

豊橋市 企画部政策企画課 夏目幹大氏

東三河懇話会 福田裕之、山田典由

(公社)東三河地域研究センター 高橋大輔、佐藤克彦

(1) 第1回 (R2.12.8 於：ムサシ イノベーションラボ クルー)

討論テーマ：「東三河50年の歩み」(発表者：山田典由)

討論テーマ：「東三河地域の現状と東三河県庁の取組」(発表者：藏地弘典氏)

(2) 第2回 (R3.1.29 於：ムサシ イノベーションラボ クルー)

討論テーマ：「東三河地域人口増減率、高齢化の推移」(発表者：藏地弘典氏)

討論テーマ：「武蔵精密工業(株)の事業概要」(発表者：鈴木隆文氏)

(3) 第3回 (R3.2.24 於：ムサシ イノベーションラボ クルー)

討論テーマ：「第6次豊橋市総合計画概要」(発表者：夏目幹大氏)

討論テーマ：「イノチオホールディングス(株)の事業概要」(発表者：山北悠杏氏)

- (4) 第4回 (R3.3.26 於：ムサシ イノベーションラボ クルー)
討論テーマ：「豊橋信用金庫の事業概要」 (発表者：坂田祐人氏)

【討論の結果と今後のテーマ】

討論にて抽出されたテーマとして「人口減少、人材確保」「働き方改革、雇用確保」「新しい農業、担い手確保」等々が挙げたが、この中で『東三河地域の農業のこれからの姿（フードバレー構想を含む）』を最初のテーマとし、大学の専門家にも加わっていたき、令和3年度下半期を目標として提言（レポート）の取りまとめを目指す。

10. 各種団体、調査委員会等への参加、協力

- (1) (一社) 中部経済連合会
- (2) (公財) 中部圏社会経済研究所
- (3) (一財) 東海産業技術振興財団
- (4) (一社) 奥三河ビジョンフォーラム
- (5) 愛知県港湾協会
- (6) 三河港振興会
- (7) 豊かな海“三河湾”環境再生推進協議会
- (8) 伊勢湾再生海域検討会
- (9) 東三河生態系ネットワーク協議会
- (10) (NPO) 穂の国森づくりの会
- (11) (NPO) 朝倉川育水フォーラム
- (12) 東三河流域フォーラム
- (13) 一般国道151号改良促進期成同盟会
- (14) 豊橋みなとフェスティバル実行委員会
- (15) (一社) 豊橋観光コンベンション協会
- (16) (公財) 豊橋市国際交流協会
- (17) (公財) 豊橋文化振興財団
- (18) 豊橋日独協会
- (19) とよはし市電を愛する会
- (20) 豊橋市民愛市憲章推進協議会
- (21) 530運動環境協議会
- (22) 愛知県地球温暖化防止活動推進センター

収 支 決 算 報 告

令和2年度
収 支 決 算 書
(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

収入決算額	31,779,574円
支出決算額	29,781,680円
差引残高	1,997,894円

《 収 入 の 部 》

(単位：円)

科 目	予算額(1)	決算額(2)	差異(2)-(1)	予算比	備 考
1. 会費収入	24,600,000	24,720,000	120,000	100.5%	
1)法人会費	22,020,000	22,140,000	120,000	100.5%	
2)個人会費	240,000	240,000	0	100.0%	
3)特別会費	2,340,000	2,340,000	0	100.0%	
2. 事業収入	5,358,000	3,201,441	△ 2,156,559	59.8%	
1)産学官交流サロン	2,950,000	1,866,441	△ 1,083,559	63.3%	
2)午さん交流会	1,208,000	1,185,000	△ 23,000	98.1%	
3)新春懇談会	1,200,000	150,000	△ 1,050,000	12.5%	
4)その他の事業	0	0	0	0.0%	
3. その他の収入	1,950,500	1,900,323	△ 50,177	97.4%	
1)特定預金取崩収入	50,000	0	△ 50,000	0.0%	
①減価償却引当特定預金	0	0	0	0.0%	
②財政調整引当預金	50,000	0	△ 50,000	0.0%	
2)雑収入	1,900,500	1,900,323	△ 177	100.0%	
①受取利息	500	323	△ 177	64.6%	
②雑収入	1,900,000	1,900,000	0	100.0%	
当期収入合計	31,908,500	29,821,764	△ 2,086,736	93.5%	(A)
前期繰越収支差額	1,957,810	1,957,810	0	100.0%	
収入合計	33,866,310	31,779,574	△ 2,086,736	93.8%	(B)

《 支 出 の 部 》

(単位：円)

科 目	予算額(1)	決算額(2)	差異(2)-(1)	予算比	備 考
1. 運営事業費	1,880,000	988,876	△ 891,124	52.6%	
1) 総会・理事会費	500,000	346,196	△ 153,804	69.2%	
2) 広報費	1,180,000	437,936	△ 742,064	37.1%	会報誌発行・郵送等
3) 講演・説明会費	200,000	204,744	4,744	102.4%	
2. 事業費	5,270,000	3,785,186	△ 1,484,814	71.8%	
1) 産学官交流サロン	2,880,000	2,254,744	△ 625,256	78.3%	
2) 午さん交流会	1,040,000	861,263	△ 178,737	82.8%	
3) 新春懇談会	1,050,000	387,159	△ 662,841	36.9%	
4) その他の事業	300,000	282,020	△ 17,980	94.0%	
3. 調査・研究費	11,710,000	11,527,880	△ 182,120	98.4%	
1) 調査・研究費	8,200,000	8,240,000	40,000	100.5%	研究センター分(会費の1/3)
2) 研究・活動費	3,510,000	3,287,880	△ 222,120	93.7%	
4. 管理費	12,963,000	12,323,473	△ 639,527	95.1%	
1) 給料手当	5,946,000	5,943,633	△ 2,367	100.0%	
2) 福利厚生費	1,283,000	988,850	△ 294,150	77.1%	
① 福利厚生費	230,000	0	△ 230,000	0.0%	
② 法定福利費	1,053,000	988,850	△ 64,150	93.9%	
3) 会議費	10,000	6,480	△ 3,520	64.8%	
4) 旅費交通費	204,000	18,660	△ 185,340	9.1%	
5) 通信運搬費	573,000	535,376	△ 37,624	93.4%	通信機器リース料含む
6) 消耗品費	966,000	950,188	△ 15,812	98.4%	
① 消耗什器備品費	0	0	0	0.0%	
② 消耗品費	966,000	950,188	△ 15,812	98.4%	OA機器リース料含む
7) 修繕費	0	0	0	0.0%	
8) 印刷製本費	120,000	152,295	32,295	126.9%	総会資料・会員名簿等
9) 新聞・図書費	172,000	176,242	4,242	102.5%	
10) 水道光熱費	257,000	240,075	△ 16,925	93.4%	
11) 賃借料	2,958,000	2,956,800	△ 1,200	100.0%	事務所賃借料
12) 交際費	60,000	11,448	△ 48,552	19.1%	
13) 諸会費	354,000	304,000	△ 50,000	85.9%	他団体の年会費等
14) 雑費	60,000	39,426	△ 20,574	65.7%	
5. その他の支出	56,265	1,156,265	1,100,000	2055.0%	
1) 固定資産購入支出	0	0	0	0.0%	
2) 特定預金繰入支出	56,265	1,156,265	1,100,000	2055.0%	
① 減価償却引当特定預金	56,265	56,265	0	100.0%	
② 財政調整引当預金	0	1,100,000	1,100,000	0.0%	
当期支出合計	31,879,265	29,781,680	△ 2,097,585	93.4%	(C)
当期収支差額	29,235	40,084	10,849		(A) - (C)
次期繰越収支差額	1,987,045	1,997,894	10,849		(B) - (C)

貸借対照表

令和3年3月31日 現在

(単位：円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
(1)現金	21,866		
(2)預金	2,556,278		
(3)未収入金	214,809		
(4)前払金	246,400		
(5)立替金	400,000		
流動資産合計		3,439,353	
2. 固定資産			
(1)設備什器備品	239,131		
(2)電話加入権	213,000		
(3)敷金	2,688,000		
(4)減価償却引当特定預金	2,583,074		
(5)事務所移転費用積立預金	200,000		
(6)財政調整引当預金	1,350,000		
固定資産合計		7,273,205	
資産合計			10,712,558
II. 負債の部			
1. 流動負債			
(1)未払金	855,040		
(2)預り金	337,562		
流動負債合計		1,192,602	
負債合計			1,192,602
III. 正味財産の部			
正味財産			9,519,956
(うち当期正味財産増加額)			(1,140,084)
負債及び正味財産合計			10,712,558

正味財産増減計算書

令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目		金 額	
I. 増加の部			
1. 資産増加額			
当期収支差額	40,084		
減価償却引当特定預金増加額	56,265		
財政調整引当預金増加額	1,100,000		
資産増加額計		1,196,349	
2. 負債減少額			
負債減少額	0	0	
増加額合計			1,196,349
II. 減少の部			
1. 資産減少額			
什器備品減価償却額	56,265		
資産減少額計		56,265	
2. 負債増加額			
負債増加額	0	0	
減少額合計			56,265
当期正味財産増加額			1,140,084
前期繰越正味財産額			8,379,872
期末正味財産合計額			9,519,956

監 査 報 告 書

東 三 河 懇 話 会
会 長 神 野 吾 郎 殿

東三河懇話会の、令和２年度（令和２年４月１日から令和３年３月３１日まで）収支決算書、正味財産増減計算書、貸借対照表およびその他の計算書類、関係帳簿を監査した結果、いずれも適法かつ正確であることを認めます。

令和３年５月１０日

東三河懇話会

監 事 豊橋信用金庫 副理事長

市 川 智 嗣 印

監 事 ㈱三菱ＵＦＪ銀行 豊橋支店長

郷 武 印

監 事 中部電力パワーグリッド㈱ 豊橋営業所長

牧 眞 司 印

＜参 考＞

国際自動車コンプレックス研究会 第22期収支決算書

（自 令和元年10月1日 至 令和2年9月30日）

収入の部

（単位：円）

科目	予算額(a)	決算額(b)	差異(b-a)	対予算比率(b/a)	備考
会費収入	1,290,000	1,290,000	0	100%	
研究交流会収入	0	0	0	0%	
事業収入	100,000	35,000	-65,000	35%	
雑収入	8	6	-2	75%	
当期収入合計	1,390,008	1,325,006	-65,002	95%	
前期繰越収支差額	312,092	312,092	0	100%	
収入合計	1,702,100	1,637,098	-65,002	96%	

支出の部

（単位：円）

科目	予算額(a)	決算額(b)	差異(b-a)	対予算比率(b/a)	備考
総会費	150,000	109,272	-40,728	73%	
研究交流会費	400,000	169,490	-230,510	42%	
事業費	600,000	310,705	-289,295	52%	
運営費	500,000	500,000	0	100%	
予備費	52,100	9,900	-42,200	19%	
当期支出合計	1,702,100	1,099,367	-602,733	65%	
次期繰越収支差額	0	537,731	537,731	0%	

議 案 2. 令和 3 年度事業計画（案）並びに収支予算（案）の件

令和 3 年度事業計画（案）

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

1. 基本方針

新型コロナウイルス感染症に係る医療関係者や高齢者へのワクチン接種が始まり、ダメージを受けた小売・飲食業、旅行業界などへの需要回帰や自律的な回復力の高まりも期待されるところですが、変異型ウイルスの発生や更なる感染拡大が懸念されており、本年度も一定の経済活動の抑制を余儀なくされることが見込まれます。

社会生活や経済活動では「ニューノーマル」と言われるポジティブな変化が加速し、テレワーク等の働き方改革やデジタルコンテンツのニーズは一気に拡大しました。また、サテライトオフィスや二地域居住などの新しいライフスタイルが浸透し、観光地で働きながら休暇を取るワーケーションなども注目されるようになりました。こうした生活・働き方のパラダイムシフトは、コロナ収束後も一定程度継続するとの予測もあり、地方を活躍の場とする機会が一層高まっていくことが期待されます。

地域社会の人口減少・少子高齢化は、長期にわたり続くことが確実視されているため、将来の地域の姿を推測し、今何をなすべきかを真剣に考えていくことが必要です。特に、コロナによって変容した生活・経済活動では、地域活性化のためのポジティブ要素として活かしていくための様々な知恵や叡智がまさに求められていると言えます。今後の地域づくりでは、移住・定住等だけでなく、「関係人口づくり」と言われるような心の繋がりによる「人の流れの創出」、DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用した仕事の生産性や生活の利便性を高めるための「新しい社会システムやサービスの創出」、減少する生産労働人口に対して「地域の高齢者や女性の働く機会の創出」等も重要になると考えます。

今年度はこうした背景を踏まえ、東三河産学官交流サロンをはじめとする産学官民交流事業につきましましては、ポストコロナに向けた地域づくりに視点を充てたテーマを中心に交流を進めるとともに、対面のみならずオンライン交流を行うなど、多様なツールによる交流の場を創出してまいります。また、広域連携事業につきましましては、関係機関などとの連携を密にして良好な関係を保持するとともに、新春懇談会や地域インフラ事業の説明会などを通して、会員の皆さまに有用な情報提供を提供してまいります。また、昨年度からスタートしました「東三河グローアップミーティング」、並びに「産学官の新しいネットワークづくりのためのワーキング」では、会員相互の新たな産学官連携に尽力するとともに、地域への提言に繋がるような討論や活動を推進してまいります。また、国際自動車コンプレックス研究会を刷新した「三河港未来戦略会議」における研究交流会等の開催、ホームページ等を活用した会員サービスの拡充などに積極的に取り組んでまいります。

コロナ禍で先が見通せない状況が続いておりますが、今後も会員の皆さまとの結束力を高めながら、界を越えた地域の繋がりを進めるネットワークセンターの役割を果たし、「東三河はひとつ」を合言葉に、未来に向けた地域づくりを鋭意進めていく所存です。

2. 事業計画

(1) 産学官民交流事業

①東三河産学官交流サロン（12回／年）

産学官民の交流連携、情報交換の場をオンラインを併用して提供。東三河の産学官民の講師や外部講師を招聘し、会員にとって「知」の場となるタイムリーな情報を発信する。また、パネルディスカッションなどの新しい企画、質疑応答やアンケートの実施など双方向のコミュニケーションの促進を図る。

②東三河午さん交流会（10回／年）

地域に密着したさまざまな話題をピックアップ。主に、東三河において社会活動や文化芸術活動を実践し、地域づくりに貢献されている方々を紹介し、会員への情報発信を行う。

③視察会

コロナ禍の影響を勘案しつつ、経済社会環境の変化や、東三河において話題となっている地域テーマを選定し、東三河地域の持続的な発展や、広域的な連携の参考となる場所、施設等の視察会開催を検討する。

④東三河グローアップミーティング（4回／年）

本会会員の次世代を担う人材の育成に主眼を置き、当地域に関連する様々な課題等をテーマとした講演会、勉強会等を通じて学び、成長したいと考えている方々が集い、交流する新たな場の創出を目的として開催する。

⑤産学官による新しいネットワークづくりのためのワーキング（12回／年）

産学官の若手メンバーに大学の専門家にも加わっていただき、地域で顕在化している課題等をテーマとした勉強会や討論などを実施し、地域への提言（レポート）として取りまとめることを目的としたワーキングを開催する。

(2) 広域連携事業

①東三河8市町村長を囲む新春懇談会

新春恒例の事業。東三河地域における共通の課題・テーマに関する東三河8市町村長参加のパネルディスカッションにより、東三河のこれからの姿を展望するとともに、会員をはじめ地域住民に広く情報発信する。

②三河港未来戦略会議（旧 国際自動車コンプレックス研究会）

三河港振興会・自動車港湾委員会と連携をとりながら研究活動を計画。三河港を中心として、広域幹線道路などの広域インフラの整備、DX化等による効率化や経済活動などに関わる事業活動について、未来を見据えながら調査研究を進めるとともに、研究テーマに関わる研究交流会・視察会の開催、ニューズレターの発行、会員企業と連携したプロジェクトの検討、提案などを行う。

③東三河生態系ネットワーク協議会

東三河生態系ネットワーク協議会の事務局として、SDGs（持続可能な開発目標）の目標である「14.海の豊かさを守ろう」「15.陸の豊かさを守ろう」を中心に活動を展開し、自然とのふれあい体験事業や生態系フォーラムを開催するとともに、協議会加入団体の活動への支援・協力、並びに企業や団体の協議会への参加呼び掛けを実施する。

④地域インフラ事業の説明会

「三河港関連事業整備計画等説明会」、「東三河地区幹線道路整備計画に関する説明会」等を主催し、東三河地域で進むインフラ等の計画・進捗状況について、関係機関と連携しながら会員等に情報発信する。

⑤各種団体との連携・協力

中部経済同友会、浜松経済同友会、(一社)奥三河ビジョンフォーラム、三河港振興会等との連携・協力により、会員交流や産学官民連携に向けた取り組みを推進する。

(3) 会員サービス事業

①広報活動の一層の推進

会報誌「MIKAWA—NAV I」（季刊）を本会ホームページに掲載する。

本会主催の各種催事の開催案内などを、本会ホームページでタイムリーに情報発信する。

(URL <https://www.konwakai.jp/>)

②会員意見の収集と運営への活用

会員へのアンケートや定期訪問等によるヒアリング調査を実施することで、地域づくりや当会の活動等に関するニーズを把握し、事業運営に活用する。

③会員サービスの質的向上

(公社)東三河地域研究センターとの情報共有と連携強化を図り、同センターが保有するシンクタンク機能を活用し、会員にとって有益な産学官民交流および広域連携事業の充実を図る。また、本会ホームページに会員からの有用な情報を無償で掲載する。

④「東三河地域問題セミナー」の支援

東三河の現状と将来を考え、地域をリードする人材育成のための基礎的、専門的な知識を得る場として、(公社)東三河地域研究センターが主催する当該セミナーを会員内外に広く周知し、動員を図る。

(4) 会員増強

東三河の産学官交流の場としてのコミュニケーションセンター機能を充実させ、会員相互の交流による地域連携の有益性を訴求し、広く地域の方々に提議する。併せて、商工会議所、商工会の会員企業等で、当会に未加入の企業に対する勧誘活動を推進するなど、会員の増強を図る。

令和3年度
収 支 予 算（案）
（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）

《 収 入 の 部 》

（単位：円）

科 目	令和3年度	令和2年度	令和2年度	前年	備 考
	予算額	決算額	予算額	予算比	
1. 会費収入	24,720,000	24,720,000	24,600,000	100.5%	
1) 法人会費	22,260,000	22,140,000	22,020,000	101.1%	
2) 個人会費	120,000	240,000	240,000	50.0%	
3) 特別会費	2,340,000	2,340,000	2,340,000	100.0%	
2. 事業収入	6,118,000	3,201,441	5,358,000	114.2%	
1) 産学官交流サロン	3,520,000	1,866,441	2,950,000	119.3%	
2) 午さん交流会	1,108,000	1,185,000	1,208,000	91.7%	
3) 新春懇談会	750,000	150,000	1,200,000	62.5%	
4) その他の事業	740,000	0	0	0.0%	
3. その他の収入	2,480,500	1,900,323	1,950,500	127.2%	
1) 特定預金取崩収入	700,000	0	50,000	1400.0%	
① 減価償却引当特定預金	0	0	0	0.0%	
② 財政調整引当預金	700,000	0	50,000	1400.0%	
2) 雑収入	1,780,500	1,900,323	1,900,500	93.7%	
① 受取利息	500	323	500	100.0%	
② 雑収入	1,780,000	1,900,000	1,900,000	93.7%	
当期収入合計	33,318,500	29,821,764	31,908,500	104.4%	(A)
前期繰越収支差額	1,997,894	1,957,810	1,957,810	102.0%	
収入合計	35,316,394	31,779,574	33,866,310	104.3%	(B)

《 支 出 の 部 》

(単位：円)

科 目	令和3年度	令和2年度	令和2年度	前年	備 考
	予算額	決算額	予算額	予算比	
1. 運営事業費	1,590,000	988,876	1,880,000	84.6%	
1) 総会・理事会費	850,000	346,196	500,000	170.0%	
2) 広報費	480,000	437,936	1,180,000	40.7%	
3) 講演・説明会費	260,000	204,744	200,000	130.0%	
2. 事業費	6,990,000	3,785,186	5,270,000	132.6%	
1) 産学官交流サロン	3,600,000	2,254,744	2,880,000	125.0%	
2) 午さん交流会	1,300,000	861,263	1,040,000	125.0%	
3) 新春懇談会	750,000	387,159	1,050,000	71.4%	
4) その他の事業	1,340,000	282,020	300,000	446.7%	
3. 調査・研究費	11,750,000	11,527,880	11,710,000	100.3%	
1) 調査・研究費	8,240,000	8,240,000	8,200,000	100.5%	研究センター分(会費の1/3)
2) 研究・活動費	3,510,000	3,287,880	3,510,000	100.0%	
4. 管理費	12,879,000	12,323,473	12,963,000	99.4%	
1) 給料手当	6,090,000	5,943,633	5,946,000	102.4%	
2) 福利厚生費	1,160,000	988,850	1,283,000	90.4%	
① 福利厚生費	150,000	0	230,000	65.2%	
② 法定福利費	1,010,000	988,850	1,053,000	95.9%	
3) 会議費	10,000	6,480	10,000	100.0%	
4) 旅費交通費	60,000	18,660	204,000	29.4%	
5) 通信運搬費	640,000	535,376	573,000	111.7%	
6) 消耗品費	960,000	950,188	966,000	99.4%	
① 消耗什器備品費	0	0	0	0.0%	
② 消耗品費	960,000	950,188	966,000	99.4%	
7) 修繕費	0	0	0	0.0%	
8) 印刷製本費	90,000	152,295	120,000	75.0%	
9) 新聞・図書費	180,000	176,242	172,000	104.7%	
10) 水道光熱費	257,000	240,075	257,000	100.0%	
11) 賃借料	2,958,000	2,956,800	2,958,000	100.0%	
12) 交際費	60,000	11,448	60,000	100.0%	
13) 諸会費	354,000	304,000	354,000	100.0%	
14) 雑費	60,000	39,426	60,000	100.0%	
5. その他の支出	56,265	1,156,265	56,265	100.0%	
1) 固定資産購入支出	0	0	0	0.0%	
2) 特定預金繰入支出	56,265	1,156,265	56,265	100.0%	
① 減価償却引当特定預金	56,265	56,265	56,265	100.0%	
② 財政調整引当預金	0	1,100,000	0	0.0%	
当期支出合計	33,265,265	29,781,680	31,879,265	104.3%	(C)
当期収支差額	53,235	40,084	29,235		(A)－(C)
次期繰越収支差額	2,051,129	1,997,894	1,987,045		(B)－(C)

<参 考>

三河港未来戦略会議 第23期収支予算

(自 令和2年10月1日 至 令和4年3月31日)

収入の部 (単位: 円)

科目	第23期予算	第22期予算	第22期決算	備考
会費収入	1,290,000	1,290,000	1,290,000	
研究交流会収入	0	0	0	
事業収入	100,000	100,000	35,000	
雑収入	69	8	6	
当期収入合計	1,390,069	1,390,008	1,325,006	
前期繰越収支差額	537,731	312,092	312,092	
収入合計	1,927,800	1,702,100	1,637,098	

支出の部 (単位: 円)

科目	第23期予算	第22期予算	第22期決算	備考
総会費	150,000	150,000	109,272	
研究交流会費	500,000	400,000	169,490	
事業費	700,000	600,000	310,705	
運営費	500,000	500,000	500,000	
予備費	77,800	52,100	9,900	
当期支出合計	1,927,800	1,702,100	1,099,367	
次期繰越収支差額	0	0	537,731	

議 案 ３．細則一部改訂の件

個人会員の会費改訂に伴い、当会の細則の一部（会費徴収に関連する記載内容等）を改訂させていただきます。

現行細則	細則変更案
第１条 本会の会費は次のとおりとする。 （１）法人会員及び個人会員は１口月額金10,000円。特別会員は１口月額金6,500円。 （２）月会費の３分の１は、公益社団法人東三河地域研究センターの会費とする。法人会員会費及び個人会員会費は６ヶ月分で20,000円、１年分で40,000円、ならびに特別会員会費は６ヶ月分で13,000円、１年分で26,000円を公益社団法人東三河地域研究センターの会費とする。	第１条 本会の会費は次のとおりとする。 <u>（１）法人会員は１口月額10,000円、個人会員は１口月額5,000円。</u>特別会員は１口月額6,500円。 （２）月会費の３分の１は、公益社団法人東三河地域研究センターの会費とする。<u>法人会員会費は６ヶ月分で20,000円、１年分で40,000円、個人会員会費は６ヶ月分で10,000円、１年分で20,000円、</u>特別会員会費は６ヶ月分で13,000円、１年分で26,000円を公益社団法人東三河地域研究センターの会費とする。

議 案 4. 役員変更の件

役 職	退 任	就 任
常任理事	(株)大三コーポレーション 取締役会長 松井 英治郎	(株)大三コーポレーション 代表取締役 松井 孝悦
同	(株)デンソー 豊橋製作所長・豊橋東製作所長 古海 盛昭	(株)デンソー 豊橋製作所長 阿部 守一
同	トピー工業(株) 豊橋製造所長 竹内 征規	トピー工業(株) 豊橋製造所長 野秋 明弘
同	豊川信用金庫 理事長 半田 富男	豊川信用金庫 理事長 真田 光彦
同	豊橋鉄道(株) 代表取締役社長 伊藤 正雄	豊橋鉄道(株) 代表取締役社長 小笠原 敏彦
同	名古屋鉄道(株) 取締役専務執行役員 不動産事業本部長 高崎 裕樹	名古屋鉄道(株) 取締役常務執行役員 不動産事業本部長 日比野 博
同	三菱ケミカル(株) 理事役愛知事業所長 八木 貞輝	三菱ケミカル(株) 経営執行職愛知事業所長 笠坊 行生
理事	(株)静岡銀行 豊橋支店長 飯田 昌弘	(株)静岡銀行 豊橋支店長 藤森 学
同	大成建設(株) 常務執行役員名古屋支店長 平田 尚久	大成建設(株) 常務執行役員名古屋支店長 鈴木 淳司
同	(株)中日新聞社 取締役会長 白井 文吾	(株)中日新聞社 代表取締役社長 大島 宇一郎
同	(株)三井住友銀行 豊橋支店長 永楽 克豪	(株)三井住友銀行 豊橋支店長 栗林 徹
同	三井住友信託銀行(株) 豊橋支店長 伊藤 寛	三井住友信託銀行(株) 豊橋支店長 小國 昌彦

令和3年度 東三河懇話会役員名簿（案）

※太字は変更部分を示す

会 長	(株)サーラコーポレーション 代表取締役社長兼グループ代表・CEO	神野吾郎
副会長	(株)トヨテック 代表取締役社長	小野喜明
同	小池商事(株) 代表取締役社長	小池高弘
同	イノチオホールディングス(株) 代表取締役社長	石黒 功
同	ヤマサちくわ(株) 代表取締役社長	佐藤元英
同	(株)田村組 代表取締役社長	田村太一
専任理事	東三河懇話会	福田裕之
常任理事	(株)アイセロ 代表取締役社長	牧野 渉
同	オーエスジー(株) 代表取締役社長兼CEO	石川則男
同	(株)オノコム 代表取締役会長	小野喬四朗
同	蒲郡信用金庫 理事長	竹田知史
同	壽鑛業(株) 代表取締役会長	河合利則
同	サーラエナジー(株) 代表取締役社長	鳥居 裕
同	新東工業(株) 常務取締役	久野恒靖
同	鈴与(株) 豊橋支店長	永田智大
同	(株)総合開発機構 代表取締役社長	小林宏之
同	総合ポートサービス(株) 代表取締役社長	柴田忠男
同	(株)大三コーポレーション 代表取締役	松井孝悦
同	中部電力パワーグリッド(株) 岡崎支社長	桑原靖和
同	(株)デンソー 豊橋製作所長	阿部守一
同	トピー工業(株) 豊橋製造所長	野秋明弘
同	豊川信用金庫 理事長	真田光彦
同	トヨタ自動車(株) 田原工場長	伊村隆博
同	豊橋鉄道(株) 代表取締役社長	小笠原敏彦
同	豊橋三菱ふそう自動車販売(株) 代表取締役社長	鈴木伊能勢
同	名古屋鉄道(株) 取締役常務執行役員 不動産事業本部長	日比野 博
同	西島(株) 代表取締役社長	西島 豊
同	西日本電信電話(株) 東海事業本部ビジネス営業部東三河営業支店長	北村光春
同	日東電工(株) 豊橋事業所長	井田 太
同	フォルクスワーゲングループジャパン(株) 監査役	菊地啓一
同	丸利建設(株) 代表取締役	権田知宏
同	三菱ケミカル(株) 経営執行職 愛知事業所長	笠坊行生
理 事	アオキトランス(株) 取締役社長	小島泰樹
同	岡崎信用金庫 理事長	田中秀明

理 事	鹿島建設(株) 常務執行役員中部支店長	片山 豊
同	川北電気工業(株) 代表取締役社長	大津正己
同	(株)サーラホテル&レストランズ 取締役支配人	梅岡浩昭
同	(株)静岡銀行 豊橋支店長	藤森 学
同	(株)清水銀行 代表取締役頭取	岩山靖宏
同	鈴与(株) 取締役会長	鈴木與平
同	(株)総合開発機構 専務取締役	伊藤信一
同	総合埠頭(株) 代表取締役社長	廣濱全洋
同	大成建設(株) 常務執行役員名古屋支店長	鈴木淳司
同	(株)中日新聞社 代表取締役社長	大島宇一郎
同	(株)中部 代表取締役社長	樽林孝尚
同	東海C S(株) 代表取締役社長	田中 猛
同	(株)トーエネック 豊橋営業所長	岡本正二
同	トピー海運(株) 代表取締役社長	竹田秀和
同	(株)名古屋銀行 取締役頭取	藤原一朗
同	名古屋鉄道(株) 代表取締役社長	安藤隆司
同	日本通運(株) 豊橋支店長	守田英司
同	本多プラス(株) 会長	本多克弘
同	(株)三井住友銀行 豊橋支店長	栗林 徹
同	三井住友信託銀行(株) 豊橋支店長	小國昌彦
同	ユタカコーポレーション(株) 取締役会長	磯村博宣
監 事	豊橋信用金庫 副理事長	市川智嗣
同	(株)三菱UFJ銀行 豊橋支店長	郷 武
同	中部電力パワーグリッド(株) 豊橋営業所長	牧 眞司

(敬称略)

<メモ欄>

東 三 河 懇 話 会

〒440-0888 豊橋市駅前大通3-53 太陽生命豊橋ビル2階

TEL (0532) 55-5141 FAX (0532) 56-0981

E-mail info@konwakai.jp

URL <https://www.konwakai.jp/>